



NAREC Newsletter

ナレック ニュース・レター

No.58
2017年冬号

環境再生事例 近畿

芥川・ひとと魚に やさしい川づくり

命を支え、楽しみ、美しい水辺と安全な暮らしを実現する川

カテゴリ

自然環境



対象テーマ



1

芥川倶楽部の10年



1



2

1. 芥川の位置

2. 芥川緑地 [あくあびあ (高槻市立自然博物館) 前より]

芥川(あくたがわ)は淀川の一次支川で、大阪府北部に位置する高槻市の中央部を、北から南へ流れています。延長は25km、流域面積は52km²。川幅は中下流域で10-20m程度です。上流には摂津峡で知られる自然のV字溪谷があり、新旧の市街地を抜けて淀川に注いでいます。ギギやムギツクが生息するなど、淀川の支川の中では比較的自然の残された河川です。ベッドタウンとして開発の進んだ1970年代には水質が悪化しましたが、今では子どもたちの泳ぐ姿が見られるほどに回復しています。2011年に下流部の堰に魚道が設置され、市街地まで天然のアユが遡上するようになりました。私たち「芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク」(愛称: 芥川倶楽部)は、このような、都市内部に残された水辺環境を活動拠点としています。

芥川倶楽部は、2017年、設立12年目を迎えました。これまで、手作りの魚道でアユの遡上をよみがえらせ、特定外来生物であるミズヒマワリをおそらく全国で初めて根絶に近い状態まで除去することに成功しました。さらに、国土交通省の設置した新しい魚道に工夫を加えるなど、水辺環境グループのトップリーダーとして活動してきました。トップリーダーを自負する我々だからこそ、必要と考え、取り組んでいる活動について紹介します。

復元前のようす

「よい子は川で遊ばない」



3

今の子どもたちは生き物にさわれない、すぐに気持ち悪がる、そもそも虫が嫌い、と聞きます。子どもが自分の意志で生き物が嫌いになったのでしょうか。子どもではなく親が、生き物が苦手なのが原因ではないでしょうか。

親世代が子どもの頃、自然は豊富だったでしょうか。少なくとも大阪近辺の河川は、今より水が汚く、ゴミも散乱しており、まさにドブ状態。「よい子は川で遊ばない」、こういう教育をされていた時代です。当然、当時の子どもは川遊びの体験がとても少なく、川は危ない、汚い、臭いものでした。ところが今、芥川の水は自慢できるくらいにきれいになりました。生き物もとても豊か

で、親水施設も整備されています。しかし、親世代は川での楽しい思い出もないので興味ありません。親が近づかないと、当然子どもも川に近づきません。近づいたとしても遊び方もわからないので面白くないし、川の怖さも知らないのでもとても危険です。

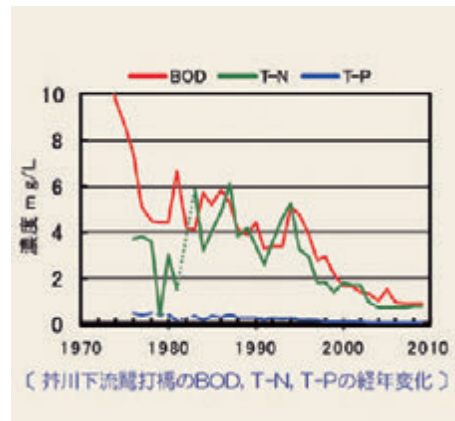
芥川倶楽部では、この負のスパイラルを断ち切るためには、できれば親世代も一緒にとにかく川遊びの機会を増やすこと、いきなり川に入ることを強いるのではなく段階的に興味を持つよう工夫することが必要だと考え、行動してきました。つまり、川に対する意識改革です。



4



5



6

3. 土のうリレーで魚みちづくり(平成18年)

4. 魚類調査

5. 小学生と水辺環境づくり

6. 芥川の水質(凡例: BOD—生物化学的酸素要求量、T-N—総窒素、T-P—総リン)

復元後のようす

お父さんはヒーロー



7

息子が4-5歳のころ、休日はいつも川遊びに連れていきました。私は環境調査の仕事もしているので、魚とりはお手の物です。毎度、子どもに自慢しました。私は、もっと大きな魚、もっと珍しい魚を取るために場所を変えようと思いますが、息子はいつも芥川の桜堤公園が阪急電車の高架下付近に行きたがりました。「なんで?」と聞いても答えません。が、行動を見てわかりました。息子は、魚いっぱいバケツを周囲に見せて、「うわ〜、すご〜い!」と言ってもらうことが嬉しいのです。だから、いつも魚より人が多いところを選んでいました。

夏場は、魚とりに来る親子がたくさんいます。でも、あまりとれていない様子です。そこに、うちの息子が自慢するので、親子は面白いはずはありませんよね。お子さんにこっそり魚をあげると、親御さんが恐縮してしまいますし… そんなあるとき、近くにいたお父さんに、「こーやったら、うまく取れますよ」と伝えたことがありました。お父さんにもプライドがあります。私が遠くに離れると即実践、魚とり成功です。お父さんの姿に、お子さんがものすごく喜んでいたので印象に残っています。次の週、その親子はまた魚とりに来ていました!



8



9



10

7. おさかな…!

8. お父さんが教える魚とり(1)

9. お父さんが教える魚とり(2)

10. お父さんが教える魚とり(3)

「お父さんのための魚とり講座」



11

このような経験がもととなり、「お父さんのための魚とり講座」を企画しました。毎年夏休みの最初に行うこのイベントでは、タモ網での上手な魚の捕獲方法を、お子さんに内緒で伝授します。夏休みは親子で水辺遊びを満喫してもらおうという意図です。お父さんが主役です。プライド(威厳?!)も保てます。

当日はまず、集合と同時に親子を分離します。子どもたちは自然博物館内で魚のお勉強です。お父さんたちは、大人だけで川に入り、プロ級のスタッフのレクチャーを受けます。その後、親子一緒に川に入ります。子どもたちの「お父さんすごーい!!」という声が響きます。お

父さんは、子どもの前で思いっきり自慢できるという流れです。おかげさまでイベントは毎年大盛況です。この講座はお父さんだけでなく、お母さん、おじいさん、おばあさん、お兄さんなど、大人の方なら誰でも参加できます。嬉しいことに、参加されたお母さんたちがいつも一番はしゃいでくれます。そして、第1回目の講座に参加された親子が、5年後に講師役で戻ってきてくれました。着実に後継者が育っていることを実感しています。



12



13

アンケート数 23 (複数回答可)			
「お父さんのための魚とり講座」に参加されたのはなぜですか?	魚のとり方を知りたいから	10	
	子どもと川遊びを楽しみたいから	15	
	知人に誘われたから	2	
	あくびあひの行事が楽しいから	3	
	その他		
子どものころ川遊びをしていましたか?	頻りにしていた	6	
	ときどきしていた	12	
	ほとんどしたことがない	4	
	したことがない	1	
講座に参加して、いかがでしたか?	楽しかった	23	
	魚のとり方を知れた	13	
	川遊びの注意点を知れた	4	
	新しい発見があった	8	
	もった川に行きたくなった	12	
	むしろしなかった	3	
	つまらなかった		
参加者	男性	21	夫婦で参加: 5組
	女性	7	1人で参加: 5人
	子ども(男児)	13	
	子ども(女児)	6	

14

11. プロに教わる魚とり(中央筆者)
12. 魚の取り方、川での注意の講習
13. お母さんもやります魚とり!
14. お父さんのための魚とり講座のアンケート集計

段階的に川に興味を持ってもらう工夫



15

第1段階: 魚つりゲームと水槽展示(川の魚に興味を持つ)

幼児でも遊べる魚つりゲームです。芥川に生息している魚を紙で作って、それを磁石でつりあげます。地味なゲームですがとても好評で、小学校高学年、大人まで夢中で遊びます。子どもたちの興味を引くというハードルは、思っていたより低いのだとわかりました。

第2段階: 水辺の楽校(学校と協力して川の生き物に触れる)

子どもたちは最初、コケが生えた石を「汚い」と言いながら恐る恐る川に入ります。タモ網を持ち、水をかき回しますが、魚は入りません。つまらなさそうに「魚おらへん!」と言います。しかし、網を構えて草の根元を足でかき回し、魚がとれ始めると目が輝きだします。時間になっても「上がりたくない!」の合唱です。

子どもの頃、私は純粋に川が大好きでした。大人になるにつれ、危険性や権利、管理などについて知ることになります。一つ一つが難しい問題です。それを会議室の中で議論するから、余計に解決しにくく感じます。みんなで川に入って、流れを聞いて、においをかいで、そう、子どもの頃にそうしたように、五感全部で感じると「川はみんなのもの、みんなで守らなくっちゃ」となって、気持ちいい関係が再び構築できるように思います。一連の工夫がその一翼を担えれば光栄です。



16



17



18

15. 水辺の楽校(1)
16. 魚つりゲーム
17. 親子で集合
18. 水辺の楽校(2)

今後の展望と課題

19. 芥川倶楽部の“濃い”10年を1枚に。

川づくりは始まったばかりです

20. 親水護岸(手前)からみお筋へアクセス

21. ブカツ参加者募集チラシ。

興味や生活に合わせて選べます

「お父さんのための魚とり講座」に対して、お父さんだけでなく、お母さんも!という要望が出てきています。その要望に応えるため、近いうちにお母さんを対象とした講座を開催予定です。イケイケ母さんを対象とした「活かすママのための、魚とり(& 食べちゃうぞ♪)講座」や、川遊びデビューを考えている親子、川で芸術的なセンスを開花させたい貴婦人を対象とした「河原で創作、芸術講座(おもしろ発見、ストーンアートなど)♪」を考え中です。

近年、川の魚より、川で遊ぶ「川ガキ」こそが絶滅危惧種だという声もよく聞きます。芥川の川ガキも、既



20



福田真司 (ふくだしんじ)

NPO法人 芥川倶楽部 理事 & キタイ設計(株) 技術部次長
環境再生医(中級)

1971年生まれ

専門・得意分野: 川遊び、川ガキ・野球小僧の育成、
クワガタ採集

主な公的資格: 技術士(建設部門、農業部門)、
APEC エンジニアリング、1級造園施工管理技士

2017年9月9日(土)・10日(日) いい川・いい川づくり新聞

行動力と素直で突っ走った10年

【10年間の川づくり】土の川に魚が戻り、川が生き生きとした。芥川に魚が戻り、川が生き生きとした。芥川に魚が戻り、川が生き生きとした。

【魚の生態】魚の生態は、川の水質や水温、流速などに大きく影響されます。魚は、川の水質や水温、流速などに大きく影響されます。

【魚の生態】魚の生態は、川の水質や水温、流速などに大きく影響されます。魚は、川の水質や水温、流速などに大きく影響されます。

【魚の生態】魚の生態は、川の水質や水温、流速などに大きく影響されます。魚は、川の水質や水温、流速などに大きく影響されます。

芥川倶楽部

大阪・高槻

川づくりは人づくり
「アユ」が育つ川づくり

「お父さんのための魚とり講座」に対して、お父さんだけでなく、お母さんも!という要望が出てきています。その要望に応えるため、近いうちにお母さんを対象とした講座を開催予定です。イケイケ母さんを対象とした「活かすママのための、魚とり(& 食べちゃうぞ♪)講座」や、川遊びデビューを考えている親子、川で芸術的なセンスを開花させたい貴婦人を対象とした「河原で創作、芸術講座(おもしろ発見、ストーンアートなど)♪」を考え中です。

19

に自然繁殖で種を維持できるレベルを下回っていると感じています。だからこそ、川の楽しさを知っている私たちが積極的に行動し、川ガキの育成に努めることが必要不可欠です。そして、それが川に関わる総合的な後継者の育成に最も効果的な方法だと信じています。今後も、私たち芥川倶楽部は、市民と行政など多様な主体と連携し、魚みちや川づくりなどのハード、フィールド講座などのソフト、そして熱いハートをもって、芥川の川づくりに取り組んでいきたいと考えています。



21

●連絡先

勤務先: 〒521-1398

滋賀県近江八幡市安土町上豊浦1030

キタイ設計(株) 技術部

TEL: 0748-46-4976(勤務先)

E-mail: s-fukuda@kitai.co.jp(勤務先)

fukushin2929@yahoo.co.jp(個人)